

GREEN RADER

全農長野県本部情報
／グリーンレーダー

2022 VOL.522

11



生産資材等価格高騰に係る 全農長野独自支援対策の実施について

中期事業計画(令和4～6年度)行動計画の進捗状況について 02～03

A-Reports

- ・松本山雅FCホームゲームで「JA全農長野デー」 04
- ・5年に一度の和牛の祭典「第12回全国和牛能力共進会」 05
- ・10月15日「きのこの日」に向けてイベントできのこをPR 07
- ・消費宣伝会に産地応援販売 07
- ・京都の肉牛市場関係者が生産農場を視察 08
- ・新採用職員紹介 09

A-Board

- ・今年も始まりました 令和4年 長野県産 新米キャンペーン 09
- ・JA全農長野の事業現況 10
- ・今月のおすすめレシピ 10
- ・11月のラジオ番組表 10
- ・編集後記 10



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



生産資材等価格高騰に係る全農長野 独自支援対策の実施について

～農業生産資材価格高騰に直面するJA・農家・組合員の皆様を支援します～

生産資材等の価格高騰に伴う生産コストの増加が農家経営並びに農業基盤の維持に影響を及ぼしています。全農長野は、JA・会員が組合員に実施する生産コスト上昇抑制対策に対し支援策を講じます。

がんばろう！



対策 内容

生産コスト上昇による農業経営への影響を緩和するため、組合員（生産部会を含む）に対してJAが実施する生産・出荷に直接影響する資材、肥料、農薬、飼料等に対する価格高騰対策の1／2を支出します

対象 JA

令和4年4月から令和5年2月末までに組合員（生産部会を含む）に対し生産コスト上昇抑制対策（資材、肥料、農薬、飼料等の価格高騰対策）を講じるJA

予算

予算総額2億円以内（本会の利用高に応じたJA別予算額を上限に設定します）

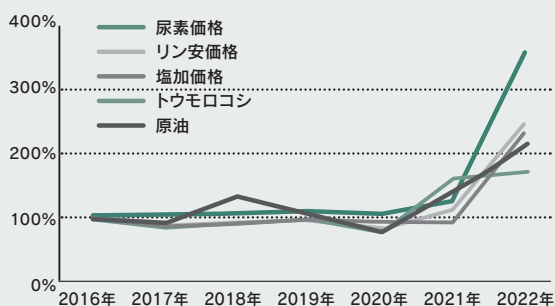


肥料原料・飼料原料市況

日本は肥料主要原料の調達を海外からの輸入に依存しています。なかでも、塩化加里においては、ロシア・ベラルーシが主要生産国であり、その他の原料においても中国などの輸出制限により需給がひっ迫することが懸念され、原料価格は高騰しています。また、令和2年下期以降、中国のトウモロコシ輸入量の増加や南米産トウモロコシの減産懸念により、原料価格の上昇が始まりました。さらに、令和3年下期から、米国のエタノール向けトウモロコシ需要の増加により、飼料価格は高騰しています。令和4年9月30日農林水産省公表の農業生産資材価格指数（総合価格指数、令和4年8月－令和2年基準）は119.5で、飼料、肥料等が上昇したことにより前年同月比は9.8%上昇、前月比は0.3%上昇したとしています。

図1

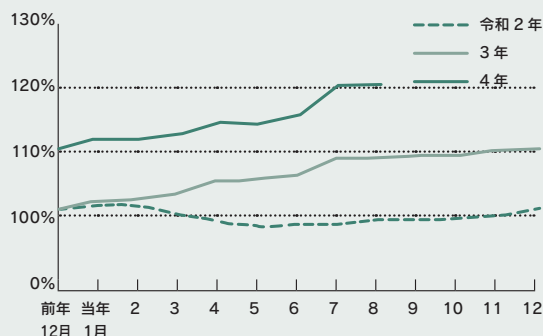
原料市況推移



出典：各年6月時点での価格にもとづき本会作成

図2

農業生産資材価格指数（令和2年=100）



出典：令和4年9月30日公表 農林水産省HP

中期事業計画（令和4、6年度） 行動計画の進捗状況について

全農長野県本部は、中期事業計画の実践によりＪＡ支援に取り組むとともに、ＪＡおよび子会社とともに農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

I. 〔中期事業計画における新たな取り組み〕 令和4年9月末時点での総括

その1 担い手推進センターの取り組み

- 生産振興提案・購買事業の利用拡大・系統集荷量の拡大を目的に、ＪＡと地域の担い手への推進方法を協議し、担い手のニーズや課題の把握を行いました。
- 担い手からの要望や課題に対しては、各事業所と本所3部門で共有、協議し、解決案の提案を行っています。
- 9月末での担い手訪問回数の累計は119回で、訪問した担い手軒数は61軒となっています。

その2 農業生産管理支援プラットフォームの進捗状況

- 関係ＪＡ・中央会との協議・課題整理をすすめる、全体的なシステム概要について県下ＪＡの動きも踏まえながら、各組織の所有するデータ連携や総合的な活用を模索しました。
- 全農長野内プロジェクトチームにおいて開発骨子案を協議・検討し、その内容をベースに機能別の具体的な開発内容について関係部署と連携・設計をすすめる、ＪＡとの合意形成をはかりました。

II. 事業別 令和4年9月末進捗状況

〔生産振興部〕

実行具体策

4年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 産地基盤維持に向けた生産振興の推進

(1)リンゴ高密植栽培の普及拡大	450 ha	現地指導の実施	現地指導を実施した。推進の基礎資料のために本年のＪＡ別面積等の調査・集約を行う。
(2)ＪＡ生産法人と連携した実証圃設置や作業委託等地域振興への取り組み	2 法人	ピーマン実証圃の設置（1法人）、アスパラガス試験圃の提案（1法人）	ＪＡ生産法人でのピーマン実証圃結果をまとめ、技術普及、ＪＡへの推進を行う。アスパラガス枠板式高畝栽培試験圃の設置をすすめる。

2. 気象変動に対応した生産安定化対策と災害急避対策の推進

(1)リンゴ高密植栽培用ハイブリッドトリスと多目的ネットの普及拡大	普及推進 現地検討4カ所	現地指導の実施3回、多目的ネット6 ha分導入確認	強度強化の現地指導を継続する。安価なハイブリッドトリス実現のために部材検討を行う。
(2)生産安定に向けた施設化推進	県下4事例 現地検討実施	アスパラガス、ピーマンの施設化提案実施 ピーマン現地検討5回	アスパラガス枠板式高畝栽培圃場の設置提案を行う。 ピーマン簡易ハウスで現地検討会を実施し、普及推進を行う。

3. スマート農業、農業DX化の促進

(1)農業生産管理支援プラットフォームの開発導入	試験運用4ＪＡ	圃場カルテシステム、情報受発信機能の開発着手	圃場カルテシステムの試験稼働、情報受発信機能の稼働を目指す。 ＪＡへの説明と導入推進を行う。
--------------------------	---------	------------------------	---

4. 県本部種苗供給体制の強化

(1)野菜種苗センターの優良苗供給拡大	20.5万本	111万本供給	良品質苗の安定生産を継続し、次期作に向けての推進を行う。
(2)リンゴフェザー苗の生産供給拡大（生産振興部生産本数）	5万本	定植・生育	歩留まり向上のための生育管理を継続する。

〔生産販売部〕

実行具体策

4年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 生産者手取り最大化に向けた販売力の強化

(1)業務・加工、輸出需要に対する多様な販売・流通手法による取り組み強化	①新規開発5件 ②輸出額18億円	①野菜4件、きのこ9件 ②12・2億円	①野菜・レタス新規取引（カット野菜2件、中食1件、CVS1件）。きのこ・カットがなしめじ新規取引（外食7件、加工1件、中食1件）。②梨のタイ向け輸出13・5t（新規10月計画）。ぶどうの生産量増加に対応して輸出货量1割拡大に向けて商談をすすめる（前年実績561・5t）。
(2)輸出需要への対応			

2. 系統集荷販売力および収益力の向上

(1)系統未利用・低利用の生産者等に向けたＪＡと連携した生産・販売提案	推進体制の設置 生産者のリスト化による推進開始 訪問件数61件	リスト整備し推進開始 訪問件数61件	3部連携による事業推進。各地推進モデルを選定する。 新規栽培への技術指導と青果向け販売提案を運動してすすめる。
(2)コンセプトを明確にした青果物付加価値販売商品の強化	付加価値販売開始5件	新規販売開発2件	FＤ商品 新規取引先1件。菓子原料用夏秋イチゴ取引1件。継続し推進する。

3. デジタル技術活用による事業効率化

(1)ＪＡ業務と連動する販売・購買システム構築による情報活用	予約集計システム開発・購買システム要件確定	要件確定に至らず引き続き検討中	予約集計システム単独ではなく、出荷報告から集荷、分荷、輸送等の各機能について、システム連動した販売業務体系の構築の一環として関係部署と調査、要件抽出をすすめている。 購買システムは、県本部Web EDCI機能の活用を前提に、開発中の同システムの要件項目が活用できるか調査をすすめる。
--------------------------------	-----------------------	-----------------	--

4. 効率的かつ安定的な輸送体制の確立

(1)継続できる安定輸送体制の実現	九州・中四国輸送モデルの導入と実証	九州は期間限定中継輸送実施、中四国は市場機能調査中	九州地区は、秋にも期間限定対応し、課題の解決に取り組む。中四国地区は、市場等の機能調査中。
-------------------	-------------------	---------------------------	---

5. ＪＡ・県本部一体となった長野米集荷推進の実施と販売力強化

(1)長野米の集荷および実需者販売の強化	72,000 t	3年産米集荷68,620 t	3年産米の長野県公表作況97。3年産米集荷数量は全量契約締結済み。 4年産米概算金引き上げ（3年産比）により、集荷推進強化をはかる。 4年産米新米キャンペーンのエリア拡大やＪＡと一体となった実需者直接営業等により販売強化をすすめる。
----------------------	----------	----------------	--

【生産購買部】

実行具体策

4年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 包材のコスト抑制・需要の結集

(1)低コスト組箱の普及拡大	40万箱	17万箱	リンゴ5kg・10kgオープン段ボール及びプルーン、あんず段ボールの低コスト組箱化を実施。 ぶどう等で低コスト組箱化をすすめる。
----------------	------	------	---

2. 低コスト・省力資材の開発、普及

(1)軽量肥料（15kg袋）の開発・普及	2000t	235t	肥料価格高騰に伴う前倒し納品などがあり計画達成。
(2)BB肥料指定混合肥料の普及・拡大	累計3銘柄	1銘柄製品化決定	製品化が決定した品目は袋製版中。 2銘柄試験中。

3. 担い手への提案型推進

(1)わたしの肥料受注推進	4,800t	4,930t	畑作中心に拡大し計画達成。
(2)担い手直送規格農業の普及拡大	4,800ha	5,767ha	園芸除草剤の受注拡大により計画達成。

4. システム構築・連携による業務効率化

(1)戸配送管理システムのデータ連携	システム改修	各システム連携テスト	JAシステム・県本部システムの改修はほぼ終了。輸送システムの改修が遅れ気味であるため、改修を急ぐ。
--------------------	--------	------------	---

5. 農機コスト低減の取り組み

(1)県域推奨型式設定による重点購買	累計10型式	10号機設定に向けたJA担当者アンケート実施	県下JA中堅職員による選定委員会を開催し、10号機設定に向けた協議を行う。
--------------------	--------	------------------------	---------------------------------------

6. 県域整備事業の体制強化

(1)中南信管内への県域整備拠点設置	設置準備	基幹会議にて設置を決定	令和5年4月稼働に向けた準備とJAとの受入協議をすすめる。
--------------------	------	-------------	-------------------------------

【畜産酪農部】

実行具体策

4年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 生産基盤の維持強化

(1)肉牛（枝肉）の出荷頭数確保	6,700頭	3,205頭	JA・関連会社・販社と連携し、補完的生产事業による頭数維持をはかる。
(2)肉豚（枝肉）の出荷頭数確保	59,000頭	29,563頭	JA・関連会社・販社と連携し、補完的生产事業による頭数維持をはかる。
(3)牛乳の出荷量確保	85,000t	42,933t	飼料高騰による酪農家戸数減の影響あり、県本部対策事業の活用による基盤維持をすすめる。

2. 信州産ブランドの強化

(1)信州プレミアム牛肉の生産販売	2,500頭	1,040頭	廃業や出荷する和牛の在籍頭数が少なかった。輸出含め有利販売に努める。
(2)銘柄豚の特色ある販売方式の維持	10銘柄継続	10銘柄継続	次年度取引に向け協議をすすめる。
(3)生乳のポジティブリスト制度に係る全戸巡回	240戸	64戸	10月〜12月に全戸巡回を実施する。

3. 県本部生産農場の機能発揮

(1)素子豚の安定供給	22,500頭	11,215頭	多産系母豚の稼働、生産性向上により、ほぼ計画通りの進捗となった。安定した育成母豚確保により頭数確保をはかる。
(2)預託牛の受入頭数拡大	380頭	358頭	大口酪農家の疾病により受入れ頭数減、今後検査対応をすすめる、頭数確保をはかる。
(3)生乳の出荷量確保	1,800t	710t	搾乳頭数減少により計画未達。秋以降分娩頭数搾乳頭数が増加予定。改善をはかる。

4. 食肉処理施設の方角付け

(1)長野県食肉施設検討会の協議	今後の方角付け	食肉施設検討会での検討	JAグループ食肉処理施設検討プロジェクトで処理施設の代替候補地を集約し、更に詳しい調査に入る。
------------------	---------	-------------	---

【生活部】

実行具体策

4年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 県域会社によるSS事業経営受託の開始

(1)JA合意形成と段階的な事業方式の移行	JA協議と合意形成	関係JAとの協議実施	関係JAの意見を踏まえたスキームを整理し、再協議をすすめる。
-----------------------	-----------	------------	--------------------------------

2. 石油取扱数量の確保

(1)系統結集数量を背景にした仕入強化	290,700kℓ	110,076kℓ	県統一の特別対策実施等により系統結集をはかるとともに、ENEOSカード発券・ENEkey発行によりキャッシュレス・顧客固定化をすすめている。
---------------------	-----------	-----------	--

3. SS協同経営販売数量の確保

(1)SS独自キャンペーンによる来店促進	66,000kℓ	30,716kℓ	QRフリーボンの発行及びLINE会員への配信による来店促進の実施。
(2)JA事業と連携した供給促進の展開			A・コープ友の会との連携企画を3JA12SSで実施し、次回（1〜2月）は4JA15SSへ展開拡大をはかる。

4. ガス取扱数量の確保

(1)JA別マスタープラン実践による小売事業強化	17,000t	6,882t	14JAでマスタープラン検討会を開催し、進捗状況の共有と課題協議を実施。
(2)顧客防衛に向けた体制整備と接点強化			12JAでベシックサービスを展開し顧客接点強化をすすめている。

5. ホームエネルギー推進体制の確立

(1)JAでんき取扱いの拡大	低圧供給	低圧供給	JAでんき取扱いを7JAで展開し、6JAがセット割引を実施。引き続き取扱JA拡大をすすめることと、9〜3月に新規契約者全員へのプレゼントキャンペーンを実施し契約戸数拡大をはかる。
(2)灯油・LPGガス・電気のセット割引導入	累計4,000戸	累計1,471戸	

6. eコマース事業の拡大

(1)取扱商品の拡充とJAと連携したPR強化による登録会員の拡大	600商品 1,500会員	445商品 929会員	JA独自品や生鮮品の取扱拡大と会員増加にむけて各種イベントに加入促進とPRを実施した。今後、Eコマースマーク品の購入ツールとして、共同購入および女性部会員へ粗品プレゼントキャンペーンを行い、サイトの利用促進をはかる。
----------------------------------	------------------	----------------	--

松本山雅FCホームゲームで「JA全農長野デー」

JA全農長野は

9月25日(日)、松本

山雅FCのホーム

ゲームでスポン

サーダー「JA全

農長野デー」を開

催しました。県産

農畜産物や事業を

紹介するブースを

出展し、テレビ局と共催のサッカーク

リニックを実施しました。

全農長野運営委員会の神農佳人会長

(Ⅱ表紙右上)は「全農長野はこれか



© 松本山雅 FC

「花の名前当てクイズ」正解のトルコギキョウを持って入場する選手



何番がトルコギキョウかを当てる「花の名前当てクイズ」



スマートフォンで「らくJAんお届け便」の会員登録をする来場者

らもサポーターの皆様と共に地元信州の農業と地域の誇りである松本山雅を応援して参ります」と挨拶すると、サポーターから大きな拍手が湧きました。ブースでは、長野県で生産される花の品目の中からトルコギキョウを当てる「花の名前当てクイズ」や、ECサイト「らくJAんお届け便」のPRを行いました。喫茶山雅とコラボレーションし県産農畜産物を使ったお弁当「One Soul全緑スタミナ



10分で完売した「One Soul全緑スタミナ丼」



「ウェルカムきのこ」を受け取る来場者



「ぶどう三姉妹」を持つ中澤さん

井」は100個限定で販売し、10分で完売しました。1000人にきのこセットを配る「ウェルカムきのこ」には開始前から長い列ができ、30分で終了しました。

また、小学4年生から6年生を対象としたサッカークリニックを長野放送と共催。元日本代表の中澤佑二さんをゲストに迎え、松本山雅FCの田中隼磨選手が飛び入り参加し、熱心に指導にあたりました。クリニックの開会式では中澤さんにクイーンルージュ®、

ナガノパープル、シャインマスカットを贈呈し、クイーンルージュを

試食していただきました。ハーフタイムでは「ぶどう三姉妹®」をPRしたほか、信州ポークのキャラクター「リッキー」、全農長野の農産物PRキャラクター「信州力」、職員がのぼり旗や横断幕を持ち農畜産物をPRしながらピッチを回りました(Ⅱ表紙下)。

このイベントはコロナ禍を除き、松本山雅FCのスポンサーとなつた2010年から毎年開催しています。全農長野ではスポーツをとおして食の魅力と大切さを発信し、県産農畜産物の消費拡大につなげたいと考えています。

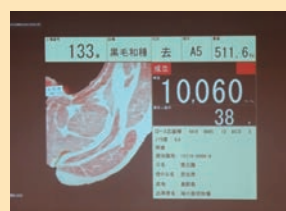
肉牛の部

会場は、南九州市知覧町です。和牛のおいしさと魅力を追求する8区は、39道府県が出品する最大の激戦区です。こちらの会場は購買者や卸業者、出品者のみが参加。

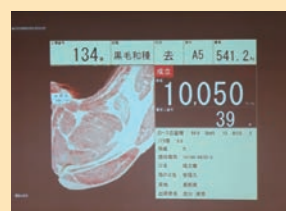


肉牛の部会場

(有)小田切牧場(JA信州うえだ)の小田切隆治さんは「牛を飼うということは地域とつながるということ。牛が必要なワラは米から、それで育てた牛からは牛糞をたい肥として使用する。長野県は野菜やくだものなど日本一がたくさんあるが“食”は全品目のパッケージ。肉も含めて連動・循環して、心からおいしくて安全安心な食を提供したい」と話します。また、吉川俊男さん(JAみなみ信州)は「2回目の挑戦で初めての全国出場。前回出場できなかったため、今回は挑戦するからには絶対に出場しようと思っていた」と話しました。



(有)小田切牧場の審査



吉川さんの審査

種牛の部・肉牛の部の審査前日の8日(土)には、全国和牛能力共進会長野県協賛会の激励会がありました。

JA全農長野副本部長の長谷川孝治協賛会長は、「ぜひ上位入場、全国でもトップクラスの成績を期待している」と挨拶し、県農政部長の小林安男協賛会顧問は「観光で訪れる皆さんに、信州和牛の素晴らしさに気付いていただきたい」と話しました。出品者の地元からは、川上村の由井明彦村長、JA長野八ヶ岳の津金一成組合長と由井康専務、JA信州うえだの眞島実組合長、JAみなみ信州の塩澤昇常務らが駆け付け、今までの管理に対する慰労と翌日の等級決定に向けた期待と激励を込めた会となりました。

長野県出品牛の結果は下表のとおりです。8区で優等1席の鹿児島県の牛は、枝肉1kgあたり56,140円、

1頭約3,170万円で競り落とされました。大会に臨んだ長野県代表の皆さんは、全国の優秀な種牛や生産者から強い刺激を受け、既に次回に向けて取り組もうとしています。

次回2027年の会場は北海道です。県代表のさらなる飛躍が期待されます。



激励会

【長野県出品牛の結果】

出品区		生産者名(JA名)	名号	受賞内容	出品頭数
種牛の部	第2区(若雌の1) (14~17カ月齢未満)	古原 敬久(長野八ヶ岳)	こはる	優等賞17席 (17位)	33頭
	第3区(若雌の2) (17~20カ月齢未満)	古原 敬久(長野八ヶ岳)	きらゆき	1等賞1席 (17位)	32頭
肉牛の部	第8区(去勢肥育牛) (24カ月齢未満の去勢肥育牛)	(有)小田切牧場(信州うえだ)	愛之助	優等賞13席 (13位)	58頭
		枝重511.6kg、格付A5、BMS12、落札価格10,060円/kg			
		吉川 俊男(みなみ信州)	宗6	1等賞	58頭
		枝重541.2kg、格付A5、BMS12、落札価格10,050円/kg			
特別区	高校・農業大学校 (14~20カ月齢未満)	下伊那農業高等学校	れいん	優等賞23席 (23位)	24頭

優等順~1等賞~2等賞の順番で、その中で席次付け。優等賞1席が最高位。

【お詫びと訂正】

本誌7月号4ページに掲載した最終審査開催記事に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

誤：古川俊男さん
正：吉川俊男さん

全国440頭の牛が鹿児島に集結！

5年に一度の和牛の祭典 「第12回全国和牛能力共進会」

5年に一度、「和牛の祭典」が行われることをご存じですか？

その祭典の名前は「全国和牛能力共進会」（通称：全共）。（公社）全国和牛登録協会が主催する全共は、優秀な和牛を一堂に集め、改良の成果や優秀性を競う全国大会です。この大会で優秀な成績を収めることにより、ブランド価値が高まる、まさに各県の威信をかけた闘いです。出品された和牛は、過去最大の41道府県から選ばれた約440頭の精鋭たち。一般来場者も含めて数十万人が訪れる「和牛のオリンピック」とも呼ばれる大会の模様をお届けします。

審査は、牛の体つきやバランスなど（＝種雄牛・繁殖雌牛としての能力）を競う「種牛の部」、和牛の肉質（＝おいしさ）を競う「肉牛の部」、今大会で新設された高校や農業大学の生徒・学生が対象の「特別区」が9つの出品区に区分して行われます。

長野県でも、3年前の種付け時から候補牛の準備を開始。今年7月、4つの区の県代表牛を選抜しました。

J A全農長野畜産酪農課は、定期的に各牧場を巡回し、生育状況を確認してきました。生産者が丹精込めて肥育してきた思いを共有しているからこそ、代表牛を選定する（＝他の牛を落選させる）ことは、心が折れる仕事でした。

出品者は候補牛を連れて3日(月)に県内を出発し4日(火)に到着。2区と3区の出品者は会場の仮設牛舎で、審査に向けて準備が始まりました。外見から能力を見極めるため毛刈りやブラッシング、また、審査会場を歩くための調教と、慣れない場所で最大限の能力を引き出します。8区の出品牛は5日(水)にと畜され、8日(土)の審査に備えました。

全共は5年に一度の開催のため、畜産酪農課の職員は経験が少ない中、出品牛と出品者がベストの状態での臨める様、J A・県も含めた長野県チームが一丸となって、出来ることを一人一人が日々精一杯取り組みました。

種牛の部

会場は、霧島市美園町。「種牛の部」の会場であるとともに、一般来場者が楽しめるエリアもあります。長野県代表は第2区（14～17カ月齢未満）と第3区（17～20カ月齢未満）ともに古原敬久さん（JA長野ハケ岳）の「こはる号」と「きらゆき号」です。

*強豪県がひしめく地元九州から多くの応援団が集まり、審査会場への入場はできなかったため、大型ビジョンの写真をご紹介します。

前回に続き2回目の出場を果たした古原さんは「前回、上位県のレベルを実感し、その後、名人と呼ばれる方と交流して畜舎を見学するなど学ばせてもらい、今日に備えた」と言います。

今年新設の特別区の県代表は、下伊那農業高校の「れいん」です。清強志さんは「他県の代表牛を見て、飼い方、エサやり、調教など勉強になった。取り入れられることを取り入れ、5年後に引き継ぎたい」と話しました。



第2区に出場した古原さんの「こはる号」



下伊那農業高校「れいん」

10月15日「きのこの日」に向けて イベントできのこのこをPR

10月15日は、日本特用林産振興会が定めた「きのこの日」です。JA全農長野は需要が伸びるこの時期に併せて長野県JA産きのこの消費拡大を目的に、様々な場所でPRを行いました。



ナガノきのこ大祭の袋詰めコーナー

■10月8日「ナガノきのこ大祭」

長野県内のきのこ生産会社・生産者が一つになり、オールナガノで「きのこの魅力」や「正しいきのこの知識」を発信、そこに、「楽しい！かわいい！」という要素も織り交せて、3年ぶりのリアル開催となりました。JAや生産会社などが約20のブースできのこのことやきのこの加工品などを販売したほか、「きのこトークショー」「きのこ総選挙」「山のきのこ鑑定」などきのこにちなんだ様々な催しがありました。

全農長野は、JAグリーン長野・JAながの・長野興農(株)・(一社)長野県農村工業研究所と合同でブース出展しました。えのきたけ、ぶなしめじ、なめこ、大粒なめこ、やまぶしたけの5品目から好きなものを袋に詰め、きのこスーパの素をつけて500円で販売し、準備した1,000パック分のきのこが1時間程度で完売しました。

■10月2日、9日 松山山雅FCアウェイゲーム

2日(日)にアスルクラロ沼津、9日(日)に藤枝MYFCのホームスタジアムでサッカーファンにむけて、



ナガノきのこ大祭の出展ブース

消費宣伝会に 産地応援販売

コロナ禍以降初めて

JA全農長野大阪販売事務所は10月7日(金)と8日(土)の2日間、コープこうべシアター店でJA中野市産のブドウの消費宣伝会を実施しました。コロナ禍以降初めて産地から応援が入り、生産者・職員の3人が店頭でPRしました。



ブドウは量り売りで専用カップに入れられ、シャインマスカット、クイーンルージュ、ナガノパープル、巨峰、紅たまきなど8品種が陳列されました。来店客は多くの品種を前に、味の特徴や皮ごと食べられるか、などを尋ねると、生産者が丁寧に説明していました。新品种のクイーンルージュは「知っている」「食べたことがある」という声も聞かれました。

今回の宣伝会で、クイーンルージュの認知度も上がってきていることを実感しました。試食の提供はまだできませんが、産地と消費地との交流が再開されたため、更に長野県産果実のPRと消費拡大および産地とのつながりを強化するよう取り組みます。



10月2日のアスルクラロ沼津戦（愛鷹広域公園多目的競技場）



10月9日の藤枝 MYFC 戦（藤枝総合運動公園サッカー場）



10月14日長野駅前でのきのこ配布

長野県JA産きのこをPRしました。きのここと実施中のきのこキャンペーンの応募はがきやレシピ、きのこスープの素を袋に入れ、両会場とも500セットを配布しました。

サポーターは「静岡県内でも長野県のえのきたけをよく買います」「夕食はきのこ鍋にします」と言ってお受け取りました。

10月14日 長野駅前

「きのこの日」を前に、きのこを食べる機会を増やしてもらおうと、10月15日にちなみ1,015個のきのこを配布しました。レシピやキャンペーン応

募はがきも手渡し、きのこの食べ方を提案しました。JA全農長野野きのこ専門委員会の佐々木真委員長は「きのこを栽培するための培地、燃料はもろろん包材、段ボールまで、すべてのコストが上がっているが、価格に転嫁するのは簡単ではない。皆さんに食べていただくことで需要が広がり、引き合いがあれば市場価格も上がる。そのことを理解していただき、たくさん食べていただきたい」と生産コストの上昇について理解を求め、消費を促しました。

京都の肉牛市場

関係者が生産農場を視察

10月7日(金)と8日(土)の2日間、京都の肉牛市場関係者が信州プレミアム牛肉の生産農場を視察しました。

産地を訪れたのは、京都食肉市場(株)、京都に拠点を置く(株)フレイバープラザと京都食肉販売(株)の買参人の合計3名。JAみなみ信州管内の生産農場で、厳しい肉牛情勢に耐えながら生産する産地の実態を理解していただくとともに、冬の需要期にむけて丹精込めて育てている和牛を見学していただきました。

視察後は生産者との意見交換会を実施し、相互理解に努め、生産から販売までの結びつきを一層強める視察となりました。

大阪販売事務所
所は今後も、農場と消費地の関係を強化する取り組みを進めて参ります。



新採用職員紹介

令和4年度の新採用職員を順次ご紹介します

東京販売事務所

きたむらまさや 北村雅也



長野県産の魅力を伝えていきます！

はじめまして、東京販売事務所きこの担当の北村雅也です。
入会してあつという間に半年以上が経ちました。農業経験がない自分にとっては、毎日が新しい発見で、充実した日々を過ごしています。

休日はサウナに行き、汗を流したり、一日中寝てしまうこともあります。コロナ禍で難しいですが、今後は旅行なども行きたいと考えています。

生産者の方や消費者の方に少しでも喜んでもらえるように、販売業務に努めていきたいと思います。

大阪販売事務所

いとうりょうた 伊藤亮太



奈良市場まつりで
信州のきのこをPRしました！

はじめまして、大阪販売事務所きこの担当の伊藤亮太です。
出身は飯田市です。幼少期から農家の祖父母を手伝い、高校時代はラグビー班で食トレ、大学では農業を専攻と、私の人生において食と農は馴染み深いものです。

入会して半年以上が経ち、徐々にきのこの知識が増え、市場の方々とのやりとりにも慣れてきました。

休日は活気あふれる関西をサイクリングしています。巨大な建物、賑やかな商店街、広大な港など刺激が多く、日々充実しています。

長野県産の魅力を余すことなく伝え、販売できるよう頑張ります！

今年度の新採用職員の紹介は今月号で終了です。

>>> A-Board

米穀課からのお知らせ

今年も始まりました 令和4年 長野県産 新米キャンペーン

キャンペーン期間：令和4年10月1日①～12月31日②

今年は
選べる
景品

A賞 10,000円分のお米券 100名様

(8,800円分のお米と引き換えいただけます)

B賞 1,000円分のデジタルギフト 200名様

>>>

>>>

応募方法

- ① キャンペーンシール (50 万枚限定) が貼付されている対象商品を2つご購入ください。
- ② キャンペーンシール 2 枚目に記載されているシリアルナンバーを 2 種ご用意ください。
- ③ WEB 応募の場合は、シリアルナンバーの左上にある二次元コードを読み取り、シリアルナンバーほか必要事項をご記入の上ご応募ください。
- ④ はがき応募の場合は、郵便はがき (または WEB サイトからダウンロードした専用はがき) にシリアルナンバー 2 種を貼付し、必要事項をご記入の上ご応募ください。

キャンペーン
特設サイトは
こちら



JA全農長野の事業現況

令和4年度9月末部門別実績表

(単位：百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
生産振興課		17	—	—
野菜種苗センター		109	86	84
生産振興部計		126	100	98
米	穀	6,819	75	83
果実花き		23,026	100	110
野菜きのこ		44,339	81	93
営業		7,794	82	95
生産販売部計		81,978	85	96
包装資材		4,448	98	107
生産資材		5,276	114	115
農業機械		3,420	94	96
施設住宅		3,149	92	127
生産購買部計		16,292	100	110
畜産酪農		16,063	102	98
三岳牧場		138	109	116
SPF繁殖センター		152	99	100
八ヶ岳牧場		103	78	85
畜産酪農部計		16,456	102	98
燃料・ホームエネルギー		12,184	102	106
SS協同経営		3,742	106	111
生活		4,472	102	98
生活部計		20,398	103	105
長野県本部計		135,251	91	99

(内部販売高含む)

11月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
11/23(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	果実花き課

今月のおすすめレシピ

長野県産野菜採れたて出荷キャンペーン
第3弾レシピ

ピリ辛! 豚バラ白菜の旨味炒め



■材料(2人分)

- ・白菜……………1/4玉
- ・豚バラ薄切り肉……………300g
- ・SPF鶏ガラスープの素……………大さじ1
- ・ゴマ油……………大さじ2
- ・輪切り唐辛子……………2本分
- ・にんにく(みじん切り)……………2かけ
- ・干し海老……………5g
- ・生姜(みじん切り)……………2かけ
- ・コチュジャン……………小さじ2
- ・鶏ガラスープの素……………大さじ1
- ・塩コショウ……………少々
- ・ラー油……………適量

■作り方

- ①白菜はざく切りにする。豚バラ薄切り肉は食べやすい大きさに切る。
- ②中火で熱したフライパンにゴマ油をひき、にんにく、生姜、唐辛子、干し海老を香りが出るまで炒める。
- ③②に豚バラを入れ、色が変わるまで炒めたら白菜を加え、SPF鶏ガラスープの素、コチュジャンを入れ強火にする。
- ④白菜がしんなりするまで炒めたら、塩コショウで味を調え、ラー油を回しかけ、器に盛る。

ワンポイント アドバイス

干し海老を入れることでグッと旨味を感じられる味わいに。お好みで五香粉などを仕上げにかけても美味しいです。

グリーンレーダーの ツイッターを始めました

JA全農長野
【公式】グリーンレーダー

@ja_greenradar



編集後記

10月に入り急に寒くなってきました。今までの暑さがうそのようです。忙しい日々の中で、あつという間に月日が過ぎていき今年も残すところ2か月余りです。体調管理を怠らず、しっかりと課題に向きあい、よい1年であったと振り返られるよう精進してまいりたいと思います。

さて、「実りの秋」真つ只中の9月25日(日)、コロナウイルス感染症対策を講じながら3年ぶりとなる松本山雅FCスポンサーイベント「全農長野デー」を本格的に開催しました。コロナウイルス感染症により一昨年は中止、昨年はピッチセレモニーのみでの開催となりましたが、本年は各種イベントを実施し、本年グランデビューしたクインルージュ®をはじめとした「ぶどう三姉妹®」など農畜産物のPRを積極的に行いました。注目の試合は、昇格へ向けた最も重要な戦いであつたので、試合前からサンプロアルウィンは大いに盛り上がりつつありますが、非常に残念ながら敗戦という結果になってしまいました。今後の踏ん張りに期待したいと思います。「最後の最後まで頑張れ山雅!」

(下)



JAスマート農業機械 2022 体感フェア

来場頂いた方に
来場者記念品を進呈 ※数量限定

最新のスマート農業技術を **実演 展示** にてご紹介

11/25金・26土

両日 9:00~15:00

会場 安曇野スイス村サンモリッツ
および周辺駐車場

※写真はイメージです。実際の展示・実演機と異なる場合がございます。

ご来場の皆様へ 新型コロナウイルス感染対策のお願い

- 37.5℃以上の発熱や咳などの症状がある方、体調がすぐれない方のご来場はお控え願います。なお受付時の検温で発熱が確認された場合は、入場を制限させていただきます。
- 会場内では、受付、マスクの着用、手指の消毒、咳エチケットなど感染対策にご協力願います。
- コロナの感染状況によっては中止する場合もございます。
中止の場合、全農長野ホームページにて11月上旬までに告知いたします。
(<https://www.nn.zennoh.or.jp>)

主催 長野県農協生産資材事業推進協議会農業機械専門部会

JA長野県・JA全農長野



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>

インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

